

日本語の単語における接尾辞-的に関する意味分析

ギナ・マリアナ

20130830035

要旨

単語は言語の中に重要な部分である。単語は人に意味を伝える役割がある。日本語の学習者として、単語の意味が分かることで誤用をさけることができる。例えば、接辞化「*affixation*」を通して、単語の意味の変化を分かることである。接辞化は基本の形態素に接辞を付けるプロセスである。日本語の中で一番使用すること接辞という接尾辞である。日本語の接尾辞の一つを-的と言う。接尾辞-的を付ければ、新しい単語のアイデンティティになる。本研究において、名詞の種類は接尾辞-的に付けられるのを説明し、語形成のプロセス及びインドネシア語で単語の意味の類似性を分析することである。

本研究の方法において、記述的分析は色々な日本語の文章にするのを使用することである。本研究のデータは三つの資料を使用し、日本語の文の例を分析する。データの分析方法、挿入技法は基本の形態素に接尾辞-的を付けるのを使用する。

データの分析結果に基づいて、基本の形態素に接尾辞-的を付けられるのは名詞である。使っている名詞の種類は人名詞、もの名詞、事態名詞、場所名詞、時間名詞、接頭語や接尾辞のついた名詞である。接尾辞-的を付けるによる語形成のプロセスをとおして、八つの形があり、N + 的 + な, N + 的 + に, N + 的 + には, N + 的 + にも, N + 的 + N, N + 的 + で, N + 的 + だ, N + 的 + である。インドネシア語には、色々な接尾辞-的の意味の類似性は-if, -is, -tik, -onal, -al, -nya, 'ala...', 'dengan...', 'secara...'など意味が表す。

キーワード：単語、接尾辞、-的、名詞の種類、接辞化、意味

1. 序論

日本語は、言語上から語形成のシステムや音韻論のシステムや文のシステムなどという特徴な言語である。「留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方」の読解の教科書に基づいて、語形成のプロセスに関して文の問題の例がある。このような文の例である。

(31-32) たいへん革新的で攻撃的という評のほか、特筆べき点として多文化をくぐってきたことを指摘している。

(RSY, 2005: 6)

(47) 日本経済は戦争で壊滅的な状態になり、戦後は高いインフレ率に悩まされていた。

(RSY, 2005: 36)

上の文章の例を見ると、(31-32)の文章において、ある単語が語形成のプロセスをとおして形成されて、革新的と攻撃的である。両方の単語の意味はまだ分からない。したがって、「*Gakushudo*」の辞書にその単語を探せば、意味は発見しない。しかし、「革新」及び「攻撃」だけ、意味の単語は見つけた。それから、(47)の文章も同じ問題があり、ある接尾辞-的を付ける単語である。単語の意味は辞書に発見しないが、基本の形態素だけ探せば、意味が見つけた。また、なぜ3つの単語は接尾辞-的を付けるのだろうか。接尾辞-的の意味は何だろう。そのことはまだ分からない。

上の問題に基づいて、筆者は接尾辞-的を付ける単語の使用に関して研究に関心を持つと考える。したがって、本研究の題名を選ぶのは「日本語の単語における接尾辞-的に関する意味分析」である。

本研究において、問題の設定が四つがある。このような問題の設定である。

- a. 接尾辞-的はどんな名詞の種類に付けられるか。
- b. 語形成のプロセスはどのように日本語の単語における接尾辞-的を使用するのだろうか。
- c. インドネシア語には、どのように接尾辞-的を付ける単語における意味の類似性だろうか。

それで、本研究の問題の範囲において、筆者は形態意味論「*morfosemantic*」に基づいて、接尾辞-的を分析するのは語形成及び単語の意味に関して述べたいと思う。

次に、このような本研究の意義が四つある。

- a. 接尾辞-的付けられる名詞の種類に関して知られるためである。
- b. 日本語の単語における接尾辞-的を使用する語形成はどのようなプロセスであるかを知られるためである。
- c. 接尾辞-的を付ける単語におけるインドネシア語の単語の意味の類似性を知られるためである。

2. 本論

A. データ及び研究の方法

本研究において、接尾辞-的を対象に語形成のプロセス及び単語の意味を分析する。色々な資料より接尾辞-的の単語を見つけた。本研究を行うために、研究の方法は質的方法、記述的分析を使用する。本研究の対象は接尾辞-的を付ける単語である。それから、データ収集は記録技法及び記入技法である。研

究の手段は筆者、書類、筆記、ペンである。データの分析をするのに挿入技法を使用する。

B. 分析の結果と考察

本研究において、データの分析をした後、筆者はデータの分析し、次のような結果を発見する。

データに基づいて、接尾辞-的を付けられる基本の形態素は名詞だけである。日本語では、名詞の種類に関して理論が二つある。増岡と田久保(1993: 33-34)及び寺田(1984:49-51)に基づいて、名詞は9種に類別される。このリストは接尾辞-的に付けられる名詞の種類である。

接尾辞 - 的を付けられる名詞の種類のリスト

接尾辞 - 的を付けられる名詞の種類	ノート
人名詞	O
もの名詞	O
事態名詞	O
場所名詞	O
方向名詞	X
時間名詞	O
接頭語や接尾辞のついた名詞	O
複合名詞	X
他の品詞から転じた名詞	X

単語は接辞化をし、品詞を変える単語もあり品詞を変えない単語もある。派生語のプロセスによる大体接尾辞-的語形成に起こる。それで、基本の形態素は意味に関して新しいアイデンティティーを変化する。これは接尾辞-的による語形成のプロセスである。

接尾辞 - 的による語形成のプロセスのリスト

接尾辞-的 基本の 形態素	接尾辞 - 的	接尾辞 - 的 のあと単語	語形
N	的	な	N + 的 + な
N	的	に	N + 的 + に
N	的	には	N + 的 + には
N	的	にも	N + 的 + にも
N	的	で	N + 的 + で
N	的	N	N + 的 + N
N	的	だ	N + 的 + だ
N	的	である	N + 的 + である

データの分析において、接尾辞-的の語形成は八つの語形を形成する。大体基本の形態素は名詞である。それから、接尾辞-的の後に語尾「な」、助詞「に」、「には」、「にも」、「で」、名詞、助動詞「だ」と「である」が表す。

接尾辞-的を付けるによる品詞の変化リスト

最初の品詞	新しい品詞	例
名詞	ナ - 形容詞	経済 → 経済的な 民主 → 民主的な 物理 → 物理的な 論理 → 論理的な 革新 → 革新的な
名詞	福祉	飛躍 → 飛躍的に 一方 → 方的に 社会 → 社会的に 強制 → 強制的に 圧倒 → 圧倒的に

上のリストに基づいて、このような品詞の変化のプロセスを表される。

1. 接尾辞-的を付けられる単語は名詞からナ-形容詞に変化できる。
2. 接尾辞-的を付けられる単語は名詞から福祉に変化できる。
3. 品詞の変化を起こるのは接尾辞-的を付ける単語における語尾「な」と助詞「に」があるからである。

次のデーターの分析、筆者はインドネシア語で接尾辞-的の意味の類似性を述べる。色々な意味を表す。これはインドネシア語で接尾辞-的の意味のリストである。

インドネシア語で接尾辞 - 的の意味の類似性リスト

インドネシア語で接尾辞 - 的の意味	単語の意味	単語の例
-if	キャラクターを表す	効果的 (<i>koukateki</i>) = Efektif 革新的 (<i>kakushinteki</i>) = Inovatif
-is	キャラクターを表す	楽天的 (<i>rakutenteki</i>) = Optimistis 経済的 (<i>keizaiteki</i>) = Ekonomis 民主的 (<i>minshuteki</i>) = Demokratis
-tik	キャラクターを表す	性格的 (<i>seikakuteki</i>) = Karakteristik
-onal	キャラクターを表す	伝統的 (<i>dentouteki</i>) = Tradisional 感情的 (<i>kanjyouteki</i>) = Emosional
-al	キャラクターを表す	典型的 (<i>tenkeiteki</i>) = Tipikal
-nya	状態を表す	一般的 (<i>ippanteki</i>) = (Pada) Umumnya 結果的 (<i>kekateki</i>) = Hasilnya
Ala	方法を現す	日本的 (<i>nihonteki</i>) = Ala orang Jepang

		日本的 (<i>nihonteki</i>) = Ala Jepang
Dengan	方法を表す	平和的 (<i>heiwateki</i>) = Dengan damai
Secara	方法を表す	相対的 (<i>soutaiteki</i>) = Secara relatif 具体的 (<i>gutaiteki</i>) = Secara konkret 物理的 (<i>butsuriteki</i>) = Secara jasmani
Makna lain	色々な意味は「キャラクター、事、状態」を表す	社会的 (<i>shakaiteki</i>) = Memasyarakat 壊滅的 (<i>kaimetsuteki</i>) = Hancur-hancuran 標準的 (<i>hyoujyunteki</i>) = Prinsipil 非能率的 (<i>hinouritsuteki</i>) = Tidak efisien サラリーマン的 (<i>Sarariimanteki</i>) = Pekerja

上のリストを見ると、インドネシア語では、接尾辞-的の意味の類似性が多いである。データの分析の結果に基づいて、色々な意味を表す。このような接尾辞-的の意味は三つがある。

1. キャラクターの意味は‘-if’, ‘-is’, ‘-tik’, ‘-onal’, ‘-al’による表される。
2. 状態の意味は‘-nya’による表される。
3. 色々な意味は他の意味のグループに表される。

3. 結び

本研究において、全体のプロセスをした後、筆者はこのような研究のまとめを引くことができる。

1. 接尾辞 - 的に付ける基本の形態素は名詞である。これは接尾辞-的に付けられる名詞の種類は人名詞、もの名詞、事態名詞、場所名詞、時間名詞、接頭語や接尾辞のついた名詞である。
2. 接辞化及び派生語のプロセを通して、接尾辞-的の語形成が起こる。分析結果が二つがあり、品詞を変化できることと変化できない。

次のような接尾辞-的の語形は品詞の変化することを表す。

- a. N+的+な
- b. N+的+に
- c. N+的+で

それから、次のような接尾辞-的の語形は品詞の変化しないことを表す。

- a. N+的+には
- b. N+的+にも
- c. N+的+N
- d. N+的+だ
- e. N+的+である

3. インドネシア語において、接尾辞-的は色々な意味の類似性を表す。意味の類似性は‘-if’, ‘-is’, ‘-tik’, ‘-onal’, ‘-al’, ‘-nya’, ‘ala...’, ‘dengan...’, ‘secara...’, 他の意味のグループがある。

今後の課題

本研究において、まだあることを分析できるから、次の研究のためにこのような提案する。

1. 本研究は形態意味論だけを述べるから、次の研究は統語論の役割に関して分析できる。
2. データの分析の結果に基づいて、基本の形態素には品詞の種類は時間名詞、人名詞、接頭語や接尾辞のついたものが少しだから、次の研究において分析することが必要である。
3. N + 的 + での語形が一つだけあるから、分析の結果を決めるのは難しいである。したがって、次の研究はこの語形を分析し、あるいは違う結果ををもらう。
4. 接尾辞 - 的の参考文献は小説、記事、雑誌におて探したほうがいいである。
5. 本研究は、読解におて、文章やテキストの中に接尾辞-的を付ける単語の意味を理解するためである。語彙において、接尾辞-的の単語の意味及び使用を理解するためである。それから、翻訳において、インドネシア語で単語の意味の類似性を探すのを使われる。

参考文献

- [1] 一橋大学留学生センター：留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方. スリーエーネットワーク, 2005年.
- [2] ヒューマンアカデミー：日本語中級18週II. ヒューマンアカデミー日本語学校, _____ 年.
- [3] 影山太郎：形態論と意味. くろしお出版, 2001年.

- [4] 国際交流基金日本語国際センター：日本語中級I. 国際交流基金日本語国際センター，1990年.
- Achmad & Abdullah, Alek. 2012. *Linguistik Umum*. Jakarta: Erlangga. *Bentuk, Makna, dan Fungsi*. Jakarta: PT. Grasindo.
- Chaer, Abdul. 2015. *Morfologi Bahasa Indonesia (Pendekatan Proses)*. Jakarta: Rineka Cipta.
- Dahidi, Ahmad. **Tanpa Tahun**. *Ihwal Klausa Relatif Bahasa Jepang*. Bandung: Universitas Pendidikan Indonesia. [Makalah]. Tersedia: <http://file.upi.edu/Direktori/FPBS/JUR. PEND. BAHASA JEPANG/195802281983031-AHMAD DAHIDI/Artikel2/IHWAL KLAUSA RELATIF BAHASA JEPANG.MAKALAH DI PASCA UPL.pdf> (diakses 27 April 2017 pukul 7:52 WIB).
- Debby. 2009. *Analisis Pergeseran Penerjemahan Kata Benda Bahasa Jepang Menjadi Kata Kerja Bahasa Indonesia Melalui Manga Towareru No Mi No Ue Jilid 1-5*. Jakarta: Binus University. [Skripsi]. Tersedia: http://library.binus.ac.id/Collections/ethesis_detail.aspx?ethesisid=2009-1-00235-JP. (diakses 5 April 2017 pukul 10:35 WIB).
- Emzir. 2015. *Teori dan Pengajaran Penerjemahan*. Jakarta: Rajawali Pers.
- Fitriyani. 2013. *Analisis Deskriptif Makna Kata Berulang Dalam Bahasa Jepang Yang Menggunakan Kanji Dilihat Dari Pemakaian Kanji Dasar*. Bandung: Unikom. [Skripsi]. Tersedia: <http://elib.unikom.ac.id/gdl.php?mod=browse&op=read&id=jbptunikompp-gdl-fitriyanin-30084>. (diakses 5 Maret 2017 pukul 11:39 WIB).
- J.W.M. Verhaar. 2010. *Asas-asas Linguistik Umum*. Yogyakarta: Gadjah Mada.
- Muhammad. 2014. *Metode Penelitian Bahasa*. Yogyakarta: Ar-Ruzz Media.
- Nurhasanah, Sulastri. 2012. *Analisis Settougo fu-, mu-, hi- dan mi- dalam Bahasa Jepang*. [Jurnal]. Tersedia: <http://lib.unnes.ac.id/11688/> (diakses 4 Juni 2017 pukul 9:15 WIB).
- Nurlaela, Imas Siti. 2015. *Analisis Sufiks –sa dan –mi dalam bahasa Jepang*. Bandung: Universitas Pendidikan Indonesia. [Jurnal]. Tersedia:

<http://repository.upi.edu/id/eprint/20188> (diakses 17 Oktober 2016 pukul 19.09 WIB).

- Parera, J.D. 2004. *Teori Semantik*. Jakarta: Erlangga.
- Arifin, Zaenal & Junaiyah. 2009. *Morfologi: Bentuk, Makna, dan Fungsi*. Jakarta: Grasindo.
- Santoso, Teguh. 2014. *Morfologi Keitairon*. Bandung: Universitas Padjajaran.
Tersedia:https://www.academia.edu/11478231/MORFOLOGI_BAHASA_JEPANG (diakses 17 Oktober 2016 pukul 20.59 WIB).
- Sudjianto & Dahidi, Ahamd. 2004. *Pengantar Linguistik Bahasa Jepang*. Bekasi: Kesaint Blanc.
- Sunarni, Nani & Johana, Jonjon. 2010. *Morfologi Bahasa Jepang: Suatu Pengantar*. Jatinangor: Sastra Unpad Press.
- Sutedi, Dedi. 2008. *Dasar-dasar Linguistik Bahasa Jepang*. Bandung: Humaniora.
- Sutedi, Dedi. 2011. *Penelitian Pendidikan Bahasa Jepang*. Bandung: Humaniora.
- Tjhin, Thian Shiang. 2013. *Kamus Lengkap Indonesia – Jepang, Jepang - Indonesia*. Jakarta: Gakushudo.
- Vance, Timothy J. 1993. *Prefiks dan Sufiks Dalam Bahasa Jepang*. Jakarta: Kesaint Blanc.